

7節 アクリル非水分散形樹脂塗料塗り(NAD) (改修)

7.7.1 一般事項

この節は、屋内のコンクリート面、モルタル面等のアクリル樹脂系非水分散形塗料の塗り替え及び新規に塗る場合に適用する。

7.7.2 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りは表7.7.1により、種別は特記による。特記がなければ、B種とする。

表7.7.1 アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り

工 程	種 別		塗 料 そ の 他		塗付量 (kg/m ²)
	A種	B種	規格番号	規格名称	
下地調整	○ (注)1(注)2		モルタル面の下地調整は、表7.2.4によるRB種とする。 コンクリート面の下地調整は、表7.2.5によるRB種とする。 押出成形セメント板面の下地調整は、表7.2.6によるRB種とする。		
1 下塗り	○	○	JIS K 5670	アクリル樹脂系非水分散形塗料	0.10
2 研磨紙刷り	○	—	研磨紙刷りP220～240		
3 中塗り	○	—	JIS K 5670	アクリル樹脂系非水分散形塗料	0.10
4 上塗り	○	○	JIS K 5670	アクリル樹脂系非水分散形塗料	0.10

(注) 1.下地調整の種別は、塗料その他の欄による。

2.新規に塗る場合は、下地調整に代えて、素地ごしらえを、モルタル面は表7.3.4によるB種、コンクリート面は表7.3.5によるB種、押出成形セメント板面は表7.3.6によるB種により行う。

表7.2.4 モルタル面及びせっこうプラスター面の下地調整

工 程	種 別			塗 料 そ の 他			面の処理
	RA種	RB種	RC種	規格番号	規格名称	種 類	
1 既存塗膜の除去	○	—	—	—			ディスクサンダー、スクレーパー等により、全面除去する。
	—	○	—	—			ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化し脆弱な部分を除去し活膜は残す。
2 汚れ、付着物除去	○	○	○	—			素地を傷つけないようにワイヤーブラシ等により、除去する。
3 ひび割れ部の補修	○	○	—	—			4章[外壁改修工事]によるひび割れ部の補修は特記による。
4 吸込み止め	○	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	既存塗膜を除去した範囲に塗り付ける。
5 穴埋め・パテかい	○	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	ひび割れ、穴等を埋めて、不陸を調整する
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
6 研磨紙刷り	○	○	—	研磨紙P120～220			乾燥後、表面を平らに研磨する
	—	—	○	研磨紙P240～320			
7 パテしごき	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	全面をしごき取り、平滑にする
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
8 研磨紙刷り	○	—	—	研磨紙P120～220			乾燥後、全面を平らに研磨する

(注) 1.アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの場合、工程4の吸込み止めは、塗料の製造所の指定するものとする。

2.合成樹脂エマルジョンパテは外部に用いない。

表7. 2. 5 コンクリート面及びALCパネル面の下地調整

工 程	種 別			塗 料 そ の 他			面の処理
	RA種	RB種	RC種	規格番号	規格名称	種 類	
1 既存塗膜の除去	○	—	—	—			ディスクサンダー、スクレーパー等により、全面除去する。
	—	○	—	—			ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化し脆弱な部分を除去し活膜は残す。
2 汚れ、付着物除去	○	○	○	—			素地を傷つけないようにワイヤーブラシ等により、除去する。
3 ひび割れ部の補修	○	○	—	—			4章[外壁改修工事]によるひび割れ部の補修は特記による。
4 吸込み止め	○	○	—	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	既存塗膜を除去した範囲に塗り付ける。
5 下地調整塗り	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1・C-2 CM-2 又はE	全面に塗りつけて平滑にする
	—	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1・C-2 CM-2 又はE	既存塗膜の除去部分の不陸を調整する
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
6 研磨紙刷り	○	○	—	研磨紙P120～220			乾燥後、表面を平らに研磨する
	—	—	○	研磨紙P240～320			
7 パテしごき	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	全面をしごき取り、平滑にする
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
8 研磨紙刷り	○	—	—	研磨紙P120～220			乾燥後、全面を平らに研磨する

(注) 1.コンクリート面の場合は、工程4を省略する。

2.合成樹脂エマルジョンパテは外部に用いない。

3.工程5の建築用下地調整塗材のC-1、C-2、CM-2又はEの使い分けは、4. 5. 5[既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上外壁等の下地調整]の(ア)による。

表7. 2. 6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の下地調整

工 程	種 別			塗 料 そ の 他			面の処理
	RA種	RB種	RC種	規格番号	規格名称	種 類	
1 既存塗膜の除去	○	—	—	—			ディスクサンダー、スクレーパー等により、全面除去する。
	—	○	—	—			ディスクサンダー、スクレーパー等により、劣化し脆弱な部分を除去し活膜は残す。
2 汚れ、付着物除去	○	○	○	—			素地を傷つけないようにワイヤーブラシ等により、除去する。
3 ひび割れ部の補修	○	○	—	—			4章[外壁改修工事]によるひび割れ部の補修は特記による。
4 下地調整塗り(注)1	○	—	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1・C-2 又は CM-2	全面に塗りつけて平滑にする
	—	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1・C-2 又は CM-2	既存塗膜の除去部分の不陸を調整する
				JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
5 吸込み止め	○	○	—	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラー及び弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー	—	既存塗膜を除去した範囲に塗り付ける。
6 パテしごき	○	—	—	JASS 18 M-202	反応形合成樹脂パテ	2液形 エポキシ 樹脂パテ	全面をしごき取り、平滑にする
7 研磨紙刷り	○	—	—	研磨紙P120～220			乾燥後、全面を平らに研磨する
	—	—	○	研磨紙P240～320			

(注) 1.押出成形セメント板面の場合は、工程4を省略する。

3.工程5のシーラー及び工程6のパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。

4.JASS 18 M-201 及び M-202 は、日本建築学会材料規格である。

5.屋内で現場塗装する場合、工程5の吸込止め及び工程6のパテしごきに使用する材料は、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定する水系塗料とする。

【4. 5. 5 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上げ外壁等の下地調整】

既存のコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に仕上塗材塗りを行う場合の下地調整は次による。

- (ア) コンクリート面の下地調整は、次による。
- (a) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。
 - (b) 下地面の清掃を行う。
 - (c) 下地調整塗材 C-2 を、1～2mm 程度全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面、厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。
 - (d) 下地の不陸調整厚さが1mm 以下の場合は、(c)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗付けることができる。
 - (e) 下地の不陸調整厚さが3mm を超えて 10mm 以下の場合は、(c)の下地調整塗材 C-2 に代えて、下地調整塗材 CM-2 を平滑に塗り付ける。

表7. 3. 4 モルタル面及びせっこうプラスター面の素地ごしらえ

工 程	種 別		塗 料 そ の 他			面の処理
	A種	B種	規格番号	規格名称	種 類	
1 乾燥	○	○		—		素地を十分に乾燥させる
2 汚れ、付着物除去	○	○		—		素地を傷つけないように除去する
3 吸込み止め	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	全面に塗り付ける
4 穴埋め・パテかい	○	○	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	ひび割れ、穴等を埋めて、不陸を調整する
			JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
5 研磨紙刷り	○	○		研磨紙P120～220		乾燥後、表面を平らに研磨する
6 パテしごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	全面をしごき取り、平滑にする
			JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
7 研磨紙刷り	○	—		研磨紙P120～220		乾燥後、全面を平らに研磨する

- (注) 1. アクリル樹脂系非水分散形塗料塗りの場合、工程3の吸込み止めは、塗料の製造所の指定するものとする。
 2. 仕上材が壁紙の場合、工程3、工程4及び工程6に用いる塗料その他は、壁紙専用のものである。
 3. 合成樹脂エマルジョンパテは外部に用いない。

表7. 3. 5 コンクリート面、ALCパネル面の素地ごしらえ

工 程	種 別		塗 料 そ の 他			面の処理
	A種	B種	規格番号	規格名称	種 類	
1 乾燥	○	○		—		素地を十分に乾燥させる
2 汚れ、付着物除去	○	○		—		素地を傷つけないように除去する
3 吸込み止め	○	○	JIS K 5663	合成樹脂エマルジョンシーラー	—	全面に塗り付ける
4 下地調整塗り	○	○	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1、C-2 CM-2又はE	全面に塗り付けて平滑にする
5 研磨紙刷り	○	○		研磨紙P120～220		乾燥後、表面を平らに研磨する
6 パテしごき	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1	全面をしごき取り平滑にする
			JIS K 5669	合成樹脂エマルジョンパテ	耐水形	
7 研磨紙刷り	○	—		研磨紙P120～220		乾燥後、全面を平らに研磨する

- (注) 1. コンクリート面の場合は、工程3を省略する。
 2. 合成樹脂エマルジョンパテは外部に用いない。
 3. 工程4の建築用下地調整塗材のC-1、C-2、CM-2又はEの使い分けは、4. 5. 5[既存コンクリート、打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上外壁等の下地調整]の(ア)及び(ウ)による。
 4. 仕上材が壁紙の場合、工程3、工程4及び工程6に用いる塗料その他は、壁紙専用のものである。

表7.3.6 コンクリート面及び押出成形セメント板面の素地ごしらえ

工 程	種 別		塗 料 そ の 他			面の処理
	A種	B種	規格番号	規格名称	種 類	
1 乾燥	○	○	—			素地を十分に乾燥させる
2 汚れ、付着物除去	○	○	—			素地を傷つけないように除去する
3 下地調整塗り (注)1	○	—	JIS A 6916	建築用下地調整塗材	C-1,C-2 又はCM-2	全面に塗り付けて平滑にする
4 吸込み止め	○	○	JASS 18 M-201	反応形合成樹脂シーラー及び 弱溶剤系反応形合成樹脂シーラー		全面に塗り付ける
5 パテしごき	○	—	JASS 18 M-202	反応形合成樹脂パテ	2液形エポキシ樹脂パテ	全面をしごき取り平滑にする
6 研磨紙刷り	○	—	研磨紙P120～220			乾燥後、全面を平らに研磨する

(注) 1. 押出成形セメント板面の場合は、工程3を省略する。

3. 工程4のシーラー及び工程5のパテは、上に塗り重ねる塗料の製造所の指定するものとする。

4. JASS 18 M-201及びM-202は、日本建築学会材料規格である。

【4.5.5 既存コンクリート打放し仕上げ外壁、既存モルタル塗り仕上げ外壁等の下地調整】

既存のコンクリート打放し仕上げ外壁、モルタル塗り仕上げ外壁等に仕上塗材塗りを行う場合の下地調整は、次による。

(ア) コンクリート面の下地調整は、次による。

(a) 目違いは、サンダー掛け等により取り除く。

(b) 下地面の清掃を行う。

(c) 下地調整塗材C-2を、1～2mm程度全面に塗り付けて、平滑にする。ただし、スラブ下等の見上げ面、厚付け仕上塗材仕上げ等の場合は、省略する。

(d) 下地の不陸調整厚さが1mm以下の場合は、(c)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材C-1を平滑に塗付けることができる。

(e) 下地の不陸調整厚さが3mmを超えて10mm以下の場合は、(c)の下地調整塗材C-2に代えて、下地調整塗材CM-2を平滑に塗り付ける。